

"Safe Haven Baby Boxes" (赤ちゃんの安全避難場所)

モニカ ケルシー (Safe Haven Baby Boxes 創設者)

Safe Haven Baby Box (SHBB) はモニカ・ケルシー (Monica Kelsey) により創設されました。彼女は命を救うためならできることは何でもするという情熱を持っていて、また彼女自身が捨て子だったという過去があることがその理由です。南アフリカのケープタウンで教会の福祉の仕事をしている時に、モニカは教会の壁にあった「赤ちゃん金庫 (Baby Safe)」を見て、この「赤ちゃん金庫」はどのように運営されているのか、そしてそれは効果的なのかと問うようになりました。サッカーをしていた何人かの子供たちがサッカー場にあるゴミ袋の中から、まだへその緒が付いたままの新生児を発見しました。その後、生きる希望牧師会 (Living Hope Ministries) はその教会にその箱を設置しました。その赤ん坊の命は救われ、教区民に養子に出されました。そして、その教会の牧師はいかなる赤ちゃんもゴミ袋に入れられ死ぬべきではないと決心し、その赤ちゃんに捧げるものとして「赤ちゃん金庫」を指示書と救済ホットナンバーと共に設置しました。その教会は、5年前の設置以来7人の赤ちゃんが赤ちゃん金庫に入れられ、さらに何百人もの女性からホットラインに電話があり赤ちゃんを捨てる前に助けを得ることができたと声明を出しました。

2014年の12月、女の子の赤ん坊がインディアナポリスの公園でスウェットにくるまれ、寒い中置き去りにされた状態で死んでいるのが発見されました。彼女には「アメリア・グレース・ホープ (Amelia Grace Hope)」という名前が付けられ、彼女の短い人生を称え、美しいお葬式と安住の地が与えられました。SHBBは、アメリア・グレース・ホープの死を無駄にしてはならないと決めました。そして、インディアナ州には、SHBBという形で最終防壁線を張るのに加え、若い男女にセーフ・ヘイブン法を教育するなどすべき仕事がたくさんあると悟りました。また、SHBBは州内全域でセーフ・ヘイブン法の売り込みと促進をしていて、24時間ホットライン (危機妊娠相談センター (Crisis Pregnancy Counseling) において訓練を受けたボランティアを配置予定) を運営しています。パム・シュテンツェル (Pam Stenzel) は危機的状況にある10代の妊婦とその家族のカウンセリングを行ってきた経験がありますが、彼女が全てのホットラインのボランティアの訓練をし、ホットライン運営の監督をする予定です。また、SHBBは救急スタッフのトレーニングにも参加予定です。モニカ・ケルシーはインディアナ州ウッドバーン (Woodburn) 消防署およびスリーリバー救急車機関 (Three Rivers Ambulance Authority, TRAA) において医師をしています。救急スタッフ養成にも関わったことがあります。

SHBBは現在、合衆国の50州の内3州で運営されています。赤ちゃんの命を救うだけでなく、女性を生涯にわたる責苦から救うのを自慢とする組織として、我々の目標は、2025年までに全50州において運営を行うことです。